

BEST MOTORCYCLE AMERICAN

あくまでもSURESHOTらしさを貫く 極上のオールドH-D BOBBER。

人の好奇をひくショー会場での派手さではなく、自らのスタイルを貫くこと。それが結果としてアワードに繋がることはビルダーにとってひとつの理想だが今回のSURESHOTはまさにその典型だろう。そんな極上の一台を此処に見る。

文・写真=渡辺まこと text & photographs by MAKOTO WATANABE
取材協力=シチュアショット phone 043-312-0900 <http://sureshot.jp/>



SURESHOT 1966 Early Shovel Bobber



ベストアメリカンのみならずスペインのMOONEYES EXCELLENCE BOOKとSONNY BOYのピックを獲得し、三冠を達成した今年のシチュアショット。オールドハーレーらしいシックな雰囲気の中に様々な技巧を散りばめたこの一台は他の出展ビルダー達からも高評価を受けたのだが、今回の出来なら当然だろう。

会場に訪れた観客の目をひく派手なペイントワークや見る者に技術力が伝わりやすいよう金属の質感を強調すること……たとえばカスタムショーでアワードを狙ったマシンには、多くの共通項があることが思い浮かぶのだが、しかし、創り手にとって時にノレが己の流儀と反する事もある。

ショーでのアワードを過剰に意識するのではなく、あくまでもショップ独自の色を貫き、それが結果としてトロフィーを獲得することは多くのビルダーにとって理想だと思うが、今回のHCSでベストアメリカンに選ばれたシチュアショットによる一台は、まさにその典型的な例だろう。

車体を見るとヴィンテージH-Dを彷彿とさせるカラーリングや気品溢れるムードなど、同店らしさを感じさせる

フィニッシュに仕上げられたこのマシンは、ハイドラグライドをベースに車幅をナロー化。フレームのフロントダウンチューブをKフレーム的なデザインで仕上げ、絶妙なシルエットを構築した上でVLスプリングも細身に再製作されているのだが、マフラーの配置やワンオフ・リンクエッジでタンク中央に備えられたシフトノブなど各部の造り込みにも徹底的な技巧が凝らされている。落ち着いた車体のムードゆえ派手さこそ感じないがディテールに散りばめられた技の数々と高いセンスはアワードに相応しい仕上がりだ。「たとえばバイクに詳しくない人が見ても美しく感じるバランスとシチュアショットらしさを意識した」とビルダーの相川拓也が語るこのマシン。今回の結果には脱帽である。



骨格はハイドラをベースにダウンチューブ部をKフレーム的なデザインでウィッシュボーン化。サイドカウルも純正風で製作する。



1 エン진은1966FLをレストアした上でアンドリュース製Jカムを組み込み、点火をDYNAB2000に換装。デュアルで装着されたリンクカードDC10キャップがさり気なく個性を演出する。2 ワンオフで製作されたシフトガンマフラーは前後の管長を整えるべくリアバンク側のエキパイはシートポストを一箇する形で装着。ナローな車幅と性能を両立する。ホースシュータイプのオイルタンクもワンオフで製作。3 このマシン最大の特徴であるスキニーな細さを強調する為、ハンドシフトのノブは分割タンク中心に配置。ルックスのアクセントとしても効果的だ。4 プライマリは2°オープンを選択し、クラッチ板はバーネットを選択。ワンオフのフットコントロールにはあえてH-D純正のベグを組み合わせ、旧車らしいムードを演出する。5 フロントフォークはVLスプリングをナローに詰めた上でダンパー付きのW&W製スプリングに換装。スタイルイメージと性能を一新する。ヘッドライトはVINTAGE COWL LIGHT。